

令和元年度 訪問看護研修ステップ1カリキュラム

科目	ねらい	目標	学習の内容	時間	
I. 訪問看護概論	保健医療福祉の動向と、訪問看護の位置づけ・役割が理解できる	1.保健医療福祉の動向と訪問看護の変遷が理解できる。 2.訪問看護の役割・機能、施設看護とは異なった特性が理解できる。 3.法制度による訪問看護の位置付け及び各種制度と訪問看護の関係が理解できる。 4.訪問看護の報酬及び請求の仕組みが理解できる。 5.訪問看護ステーションの解説・運営の概要が理解できる。 6.訪問看護の質の評価が理解できる。 7.訪問看護における倫理的課題が理解できる。	1. 保健医療福祉をめぐる社会的動向と訪問看護の変遷 2. 訪問看護の役割・機能・特性 3. 訪問看護をめぐる諸制度 4. 訪問看護ステーションの開設・運営の基礎 5. 訪問看護の質の評価 6. 訪問看護で起こり得る倫理的課題と対応	12	
II. 在宅ケアシステム論	在宅ケアシステムが理解できる。	1.地域包括ケアシステムの機能が理解できる。 2.地域包括ケアシステムにおける訪問看護の役割が理解できる。 3.地域包括ケアシステムにおける関係機関・関係職種との連携が理解できる。 4.多職種連携に必要なICTの活用が理解できる。 5.ケアマネジメントの機能及び展開方法が理解できる。 6.在宅移行支援システムが理解できる。	1. 地域包括ケアシステムの定義 2. 関係機関・関係職種の機能及び役割と多職種連携 3. ケアマネジメント 4. 在宅移行支援	6	
III. リスクマネジメント論 1 リスクマネジメント	1. 訪問看護におけるリスクマネジメントが理解できる。	1.リスクマネジメント（医療安全）の概要が理解できる。 2.訪問看護における医療事故対策が理解できる。 3.個人情報保護について理解できる。 4.訪問看護師の労働災害対策が理解できる。	1. リスクマネジメント〔医療安全〕の概念 2. 訪問看護における事故発生の特徴 3. 医療事故防止 4. 事故発生時の対応 5. 個人情報管理 6. 訪問看護師の労働災害予防	3	
2 感染管理	2. 訪問看護における感染予防及び対策を理解し、正しく実施できる	1.標準予防策（スタンダードプリコーション）が理解できる。 2.汚染された医療器具、汚物などの処理が正しくできる。 3.在宅療養者・家族、関係職種への感染予防の説明ができる。 4.感染予防策について、関係職種との連携ができる。 5.感染症に関する法規を理解し、適切な対応ができる。	1. 感染管理予防及び対策の基本 2. 感染対策マニュアル 3. 在宅感染管理の特徴 4. 在宅療養者・家族への感染予防支援 5. 感染対策における関係職種との連携 6. 在宅移行支援で注意すべき感染症と感染予防策	6	
3 災害対応	3. 訪問看護における災害対応に必要な知識が理解できる。	1.災害看護の基本が理解できる。 2.訪問看護における災害対応が理解できる。	1. 災害看護の基本 2. 訪問看護における災害対応	3	
IV. 訪問看護対象論	訪問看護の対象の特性が理解できる。	1.在宅療養者の特性が理解できる。 2.在宅療養者を支える家族の特性および支援のあり方が理解できる。 3.在宅療養者及び家族を取り巻く地域・環境（社会資源等）が理解できる。	1. 訪問看護の対象 2. 在宅療養者の特性 3. 在宅療養者を支える家族の特性 4. 在宅療養者及び家族を取り巻く地域	6	
V 訪問看護展開論	「生活を見る」視点を重視した訪問看護の展開を理解し、実施できる。	1.訪問看護過程が理解できる。 2.訪問看護の要点を理解し、実施できる。 3.訪問看護記録を正確に記述できる。 4.訪問看護記録を法制度に基づき保管できる。	1. 訪問看護過程 2. 訪問看護の実際 3. 訪問看護の記録	12	
VI-1 訪問看護展開のための知識・技術	① 療養生活の支援	セルフケアを重視した在宅での療養生活に必要な環境の調整と日常生活行動の支援ができる。	1.在宅療養におけるすべての支援にセルフケアの視点が含まれることが理解できる。 2.在宅療養におけるすべての支援に介護予防・重症化予防の視点が含まれることが理解できる。 3.在宅療養に必要な住環境を整えることができる。 4.在宅療養における日常生活行動の支援ができる。	1. 在宅療養の環境 2. 在宅療養における日常生活行動支援	12
	② コミュニケーション技術（面談技術）	在宅療養者および家族を総合的に理解し、支援するためのコミュニケーションのあり方が理解できる	1.在宅療養におけるコミュニケーションの特徴が理解できる。 2.在宅療養者および家族を理解し、支援につながる面談ができる	1. コミュニケーションの概要 2. 在宅療養における日常生活行動支援における面談技術の基本 3. 面談の実際	6
	③ フィジカルアセスメント	在宅療養者の健康状態を的確にアセスメントし、異常の早期発見ができる。	1.問診・視診・触診・打診・聴診ができる。 2.バイタルサインの正しい測定ができる。 3.呼吸・循環・神経系のアセスメントができる。	1. 問診のポイント 2. 視診・触診・打診・聴診によるアセスメント 3. バイタルサインによる病態別、病期別、年齢別アセスメント 4. 症状による呼吸・循環・神経系のアセスメント 5. バイタルサイン測定及び視診・触診・打診・聴診の技術習得	6
	④ リハビリテーション看護	在宅療養者の能力を活かし、自立した生活を再構築するための支援ができる。	1.リハビリテーションの概念と基本的アプローチが理解できる。 2.リハビリテーションの基本的な技術が理解できる。 3.福祉用具の活用および住宅改修の必要性が理解できる。	1. リハビリテーションの概念と基本的アプローチ 2. リハビリテーションの看護 3. 福祉用具の活用および住宅改修	6
	⑤ 服薬管理	在宅療養における薬物療法の効果的な支援ができる。	1.薬物に関する基本的知識及び安全な服薬管理について理解できる。 2.在宅療養者および家族への服薬支援ができる。 3.医師、薬剤師、介護職員等の関係職種との連携方法について理解できる。	1. 薬物の基本的知識 2. 在宅療養における服薬支援 3. 関係職種との連携	6
VI-2 医療処置別の知識・技術	① 経管栄養法 中心静脈栄養法 末梢輸液管理	医療処置を伴う栄養摂取に関する支援ができる。	1.経管栄養法による栄養管理を必要とする在宅療養者の支援ができる。 2.中心静脈栄養法による栄養管理を必要とする在宅療養者の支援ができる。 3.末梢輸液管理が安全にできる。	1. 経管栄養法 2. 中心静脈栄養法 3. 末梢輸液管理	6
	② スキンケアと褥瘡ケア	在宅療養者の皮膚や粘膜の状態、創傷状態に合わせたスキンケアができる。	1.皮膚および創傷状態をアセスメントできる。 2.スキンケアの基本が理解できる。 3.在宅での褥瘡の状態に応じたケアが適切にできる。	1. スキンケアの基本 2. 在宅で確りやすい皮膚疾患とケア 3. 褥瘡予防と褥瘡ケア 4. その他の創傷ケア	6
	③ ストーマケア	ストーマケアによる排泄管理を必要とする在宅療養者の支援ができる。	1.ストーマケアの基本が理解できる。 2.在宅療養者の状態に合わせたストーマケアが実施できる。	1. ストーマの定義と種類 2. ストーマケア	6
	④ 間欠自己導尿 膀胱留置カテーテル 腹膜透析	間欠自己導尿・膀胱留置カテーテル・腹膜透析による排泄管理や腹膜透析を必要とする在宅療養者への支援ができる。	1.間欠自己導尿による排泄管理を必要とする在宅療養者の支援ができる。 2.膀胱留置カテーテルによる排泄管理を必要とする在宅療養者の支援ができる。 3.腹膜透析を必要とする在宅療養者の支援ができる。	1. 間欠自己導尿 2. 膀胱留置カテーテル 3. 腹膜透析 4. 在宅血液透析	6
	⑤ 呼吸管理	在宅酸素療法及び在宅人工呼吸法を必要とする在宅療養者が、安全な呼吸状態を維持するための支援ができる。	1.在宅酸素療法をおこなっている療養者の現状と課題が理解できる。 2.在宅酸素療法を行っている療養者の支援ができる。 3.在宅人工呼吸療法を行っている療養者の現状と課題が理解できる。 4.在宅人工呼吸療法を行っている療養者の支援ができる。 5.医師等の関係職種との連携のあり方および在宅で呼吸管理を支援する地域の社会資源が理解できる。	1. 在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法を要さない呼吸管理 2. 在宅酸素療法 3. 在宅人工呼吸療法 4. 非侵襲的人工呼吸療法：NPPV 5. 侵襲的陽圧換気療法：IPPV 6. 呼吸リハビリテーション 7. 関係職種等との連携及び社会資源の活用	6
VI-3 対象別の知識・技術	① 急変時の看護	急変時の状況に応じた適切な対応ができる。	1.急変時の対応の意義と必要なシステムが理解できる。 2.急変時の症状の特徴を理解し、対応できる。	1. 急変時の対応体制 2. 急変時の主な特徴と対応	6
	② がん看護	がん治療中の在宅療養者の支援について理解できる	1.がんの基本的知識について理解できる。 2.がんの療養者の看護の基本が理解できる。 3.がんの療養者の家族への支援について理解できる。 4.がんの療養者を支援する社会資源について理解できる。	1. がんの理解 2. がん看護の実際 3. 家族への支援 4. がん療養者を支援する社会資源	6
	③ 認知症の人の看護	認知症の人が安定した在宅療養を継続するための支援ができる。	1.認知症について理解できる 2.認知症の人の看護の特性が理解できる。 3.認知症の人を支える家族の現状が理解できる。 4.認知症の人を支援する地域の社会資源が理解できる。 5.認知症の人の尊厳を守ることができる。	1. 認知症の理解 2. 認知症の人への支援 3. 家族への支援 4. 社会資源の理解	6
	④ 精神障がい者の看護	精神障がい者が、安定した在宅療養を維持するための支援ができる。	1.精神障がい者について理解できる。 2.精神障がい者の看護の特徴を理解し、支援ができる。 3.精神障がい者と暮らし家族の現状を理解し、支援ができる。 4.精神障がい者と家族を支援する地域の社会資源が理解できる。	1. 精神障がい者の理解 2. 精神障がい者の看護の要点 3. 家族への支援の支援 4. 精神障がい者の保健医療福祉に関連する諸制度と社会資源	6
	⑤ 難病の人の看護	難病の人が安定した在宅療養を継続するための支援ができる。	1.難病の種類と看護の特徴が理解できる。 2.難病の人の看護の実際が理解できる。 3.難病の人の家族への支援が理解できる。 4.難病の人を支援する制度と社会資源が理解できる。 5.難病の人へのチームケアの役割が理解できる。	1. 難病の理解 2. 難病の人の看護の実際 3. 家族への看護 4. 療養環境の整備と社会資源の活用	6
	⑥ 疾患や障がいのある小児の看護	疾患や障がいのある小児が、安定した在宅療養を継続するための支援ができる。	1.疾患や障がいのある小児の特徴が理解できる。 2.疾患や障がいのある小児に対する基礎的な看護ができる。 3.疾患や障がいのある小児を支える家族の現状を理解し、支援できる。 4.在宅療養を支える地域の社会資源の活用やネットワークづくりについて理解できる。	1. 在宅ケアを必要とする小児の特徴 2. 在宅ケアを必要とする小児に対する基礎的な看護 3. 家族への支援 4. 社会資源の活用及びネットワークづくり	6
	⑦ エンドオブライフケア	在宅療養者と家族が、人生の最終段階を可能な限り安楽に過ごし、最期を迎えるための支援ができる。	1.エンドオブライフケアの特徴が理解できる 2.在宅で最期を迎える療養者及び家族への支援ができる。 3.エンドオブライフケアにおけるチームアプローチの役割が理解できる。	1. エンドオブライフケアの特徴 2. エンドオブライフケアにおける在宅療養者の支援 3. 家族への支援 4. チームアプローチ	6
VII 実習・その他	実習 ①病院における看護 実践見学実習 1日 ②訪問看護事業所の実践見学、実践実習（同行訪問） 2日	実践を通して、訪問看護に必要な知識・技術を修得する。	【訪問看護経験者】 1.実習を体験することにより、改めて自身の訪問看護について振り返り、訪問看護の基本について確認する。 2.在宅ケアにかかわる各機関が独自の役割を持ちながら関連性を持って 機能していることを理解し、活用方法を学ぶ。 【訪問看護未経験者】 1.様々な背景を持つ対象者への訪問看護を体験する。 2.在宅ケアにかかわる各機関が独自の役割を持ちながら関連性を持って 機能していることを理解し、活用方法を学ぶ。	1. 訪問看護の見学・実践（同行訪問）により、訪問看護の実際を知る。 2. 訪問看護以外の在宅ケアにかかわる関係機関業務の見学により、その役割や機能を知る。	18
	その他	開・閉講式・オリエンテーション・まとめ等		実習準備・まとめ 開・閉講式、発表会、その他	6
計				180	